江陽中

自分の考えをもち、共に学び、深め合う生徒の育成
～対話的・協働的活動を通して～

（３年計画の２年次）

校長　富　樫　克　輝

１　研究主題について

本校では前年度の研究から、主体的に考え、発言する態度や意識を引き出すために、授業におけるコミュニケーション能力の向上を目指して研究に取り組んできた。グループ活動などの共有場面を効果的に設定することで、自分の考えを積極的に発表しようとする生徒が増えてきている。これは、本校が八戸市学校保健会研究指定校として取り組んできた「ピアサポート活動」が浸透してきたことも大きく影響していると考えられる。ピアサポート活動により、人と協力すること、話合い活動を通して自分の意見を形にすること、相手の立場を考え、共感することの大切さを認識し、安心して自分の考えを述べることができ、仲間の意見を吸い上げ、認め合える集団の醸成ができつつあるということである。そのため、授業に主体的・対話的に参加しようとする意識の高揚が多くの生徒にみられた。その成果として授業を理解できる生徒も増えたことにつながったと考察する。

生徒の成長している部分を学力の定着に直結していくために、生徒の学習習慣のさらなる確立と教師の授業力の向上が不可欠である。家庭と連携して学習習慣の確立を図る手立てを講じることも必要となってきている。また、授業規律の徹底も大事な要素となってくる。「磨き合い、高め合い、深い意見交換をする」ことができるような発問の工夫も今後の大きな課題である。

そこで、今年度は向上してきたコミュニケーション能力を授業の中で生かしていくことと正しいコミュニケーションを図るための授業規律の徹底を目指していくことはもちろんのこと、授業の中で自分の意見が仲間に認められたり、さらに磨かれたりする経験の積み重ねが自信となり、それによって生徒間のレジリエンスの向上を図ることが「主体的・対話的に学び合う態度の育成と学力の定着」につながると考え、この研究主題を設定した。授業の中でしっかりとした自分なりの意見をもち、主体的に活動できる生徒の育成を目指し、授業や諸活動の中で他者に依存するのではなく、自分の言動に責任をもつことができる生徒に育てたいと考える。

２　研究のねらい

ピアサポート活動で高まった、相手の立場を考え、共感することの大切さを認識し、安心して自分の考えを述べることができるお互いを認め合える活動を通して、各教科や各領域において生徒の主体的な学習意欲を高めるための活動や授業形態などについて実践を通して研究する。

３　研究仮説

導入から課題設定までの工夫や、グループ活動などの対話的、協働的な活動を多く取り入れ、アウトプット作業を意識的に設定することで、深い学びができる授業内容と、自分なりの考えをもち、共に認め合って成長することができる主体的に学習することができる生徒の育成につながると考える。

４　研究内容

(1) 授業内で、導入から課題設定までの工夫を行う。
(2)「学習六則」を徹底させる。学習規律の向上を図る。また、取り組み状況を定期的、継続的に評価し、改善に努める。
(3) 各教科や各領域において、対話的、協働的な活動場面を効果的に設定する。
(4) 教員間の授業内共通理解項目を設定し、指導技術の向上を図る。（見せ合い授業月間の強化）

５　年間計画

(1) 授業研究等

月	日	授　業　研　究	全　体　会　等
４	２１	第１回校内研修	今年度の研究についての共通理解 研究テーマ及び研修計画について
５	１９	第２回校内研修 見せ合い授業参観ポイント吟味	見せ合い授業参観ポイントの共通理解
７		見せ合い授業月間	授業参観
９	２８	渡邉養護教諭命の授業	授業内容に関してアンケート記入
１１		見せ合い授業月間	授業参観及び研究協議
２	２１	第７回校内研修　　見せ合い授業月間	研修のまとめ（今年度の成果と課題）

※新型コロナウイルスの感染防止体制の状況により授業参観や協議会の形態は変更もある。

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
６	２８	第３回校内研修
８	１８	要請訪問 「指導と評価の一体化」 八戸市教育委員会　教育指導課副参事　日向端　聖様
８	１９	要請訪問「１人１台端末の活用」八戸市教育委員会　主任指導主事　大下　洋一様
１０	２６	第５回校内研修　センター・教育指導課訪問
１１	１８	第６回校内研修　ハイパーＱ－Ｕの検査結果分析

６　研究の成果

(1) 今までの授業実践をより効率よく行うため、ＤＬＴＧサイクル（授業実践 DO →指摘 Look → Think 分析・解析→ Grow 論理化)、ピアサポートの精神を組み込んだ校内研修を軸に、新学習指導要領の趣旨に則った指導案を教員同士で作成し、お互いの技術を学び合う機会を設けることができた。見せ合い授業の強化月間を例年の３倍にすることで教員間の意識も高まった。

(2) 教員で学習６則や５つの共通理解項目「１　導入から課題設定までの工夫をする。(今年度八戸市共通指導項目）２　指示・発問は限定して短く、簡潔に述べる。(指示を多く出さない。）３確認を授業内で数回行う。できた生徒をほめる。(生徒の達成度チェック）４　口頭発表・小テストなどのアウトプット作業を多く取り入れる。５　授業形態ではグループ学習・話合い活動等の協働作業を多く取り入れる。」を設定し、目標をもって授業づくりに取り組むことができた。
　生徒対象の授業アンケートにおいても５つの項目に係る質問に対して良好な回答が得られている。

７　研究の課題

(1) コロナ渦において協働作業の場が制限されることが多く、生徒がお互いの知識を共有しながら深い学び合いにもっていく授業形態の設定をすることが難しかった。

(2) １人１台端末を使用し、画面内で意見交流することで相手の意見を吸収し、深い学びにつなげていくことができた。クロームブック内の有効なソフト利用の定着を目指し、よりよい授業形態を考えていくことが必要となってきている。

（記入者　　和田　浩志）